

次期学習指導要領 1枚まとめ｜高校

情報 高校

小は総合に「情報の領域」、中は新教科、高は情報科を充実

10秒でいうと

情報Ⅰ・Ⅱの構成は維持。AI・データサイエンスを加え、両科目の最後にPBL（課題解決学習）

高校の情報科は、情報Ⅰ（必履修）と情報Ⅱ（選択）の構成を維持する方向です。そのうえで、AIやデータサイエンスに関する内容を新たに加えます。情報Ⅰ・Ⅱとも、最後に学んだことを総合的に使うPBL（課題解決型の学習）の項目を置く案です。情報Ⅱは、一定の幅で単位数を柔軟に配当できる方向です。AI時代でも、プログラミングの学習は大切とされています。

1 科目構成は維持し、AIとデータを加える

情報Ⅰが必履修になったのは前回の改訂で、共通テストへの追加は令和7年度です。安易な変更は現場の混乱を招くとして、情報Ⅰ・Ⅱの構成は維持する方向です。大学などの数理・データサイエンス・AI教育とのつながりをふまえ、AIやデータサイエンスの内容を加えます。P242

授業では 身近なデータを集めて簡単な予測モデルを作り、予測が外れる理由もグループで話し合う、といった授業が考えられます。

2 新しい内容項目の案

情報Ⅰは5項目の案です（仮称）。「情報の仕組みと社会との関わり」「情報デザインとデザイン思考」が入ります。さらに「データ分析とモデル化・シミュレーション」「アルゴリズムとシステム開発」「PBLによる課題解決の実践」です。情報Ⅱには、単独でAIを扱う項目などが加わります。P242 P255

授業では 学校行事の案内を使う人の立場で作り直し、アンケートの声をもとに改善する、といった情報デザインの授業が考えられます。

3 PBLで作って、使って、直す

情報Ⅱは、学校の実情に応じて一定の幅で単位数を柔軟に配当できる方向です。差が出るのは主に「PBLによる価値創造の実践」で、作ったものを実際に使い、改善を重ねる過程を学ぶとされています。評価も、課題解決や価値創造の過程を重視する方向です。P242 P256 P261

授業では 学校の困りごとを解決するアプリを作って実際に使ってもらい、意見をもとに何度も改良する、といった授業が考えられます。

4 AI時代のプログラミングと科目の組み替え

AIでプログラムを作れる時代でも、プログラミングの学習は不要にならないとされています。AIへの指示や、できたコードの妥当性を確かめる力が一層大切だからです。単位の柔軟化で、情報Ⅰと数学Ⅰの一部を一体化した科目などの工夫例も示されています。P249 P259

授業では 生成AIが書いたプログラムを動かして誤りを見付け、直した経緯を記録して提出する、といった授業が考えられます。

ほかにも変わること（高校）

- 新教科・領域の時数は、他の教科から「広く薄く」減らして生み出す方向 P78 P79
- タイピングや端末操作など、各教科で教えていた内容を新教科・領域へ移す方向 P243 P257
- 教員不足への対策：研修・免許講習・遠隔授業など P239 P261 P262
- 国が授業でそのまま使える動画・教材を作り、年1回以上更新する P240 P251 P254 P262
- 高校情報科：科目構成は維持し、AI・データサイエンスとPBLを強化する案 P242 P255 P256 P258
- メディアリテラシー・AI・プログラミング的思考を小中高でつなげて育てる P248 P249 P262

原田英語.com 次期学習指導要領ナビ｜https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/｜2026年11月4日 版

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。出典：審議まとめ（2026年10月5日）。告示前の方向性です。